



## 令和2年度 第1回校内授業研究を振り返って

令和2年6月26日(金)6校時に「令和2年度 第1回校内授業研究」が行われました。第1回目は、真加部教諭と小坂が授業を行いました。講師として、國學院大學人間開発学部教授 杉田洋先生、尾道市教育委員会より常光指導主事、才谷指導主事をお招きして研修を行いました。

第1回ということで、会場準備から研修準備等が計画的に仕組むことができずご迷惑をおかけしましたが、多くの先生方のご協力のおかげで無事終わることができました。校内研究授業を通して組織としての一体感が高まったように思います。今回の研修での成果と課題や、講話を日々の実践に活かしていきましょう。

### 1学年 社会科 授業者:真加部教諭

今回の授業では、歴史を振り返り過去から受け継がれた経験から学べることを考え、これからの社会にいかそうと表現することで歴史を学習する意味を深めるという目標とする授業を展開してもらいました。3週間前に、授業を引き受けただけ、そこから指導案や単元構想図を作成してもらいました。急なお願いにもかかわらず授業実践していただきありがとうございます。



### 研究協議を実施して (○:成果, ▲:課題)

- 興味の引く導入であった→事前準備◎
- 個人思考の場面で自分の判断と理由がしっかり理由が書けていた。
- 自分の生活にいかそうとする場面が設定されていた。
- これからの歴史の学習への姿勢を変えられる。
- 漫画を用いた資料など資料が豊富であった。
- 歴史を学ぶ理由を生徒の活動をもとに引き出すことができていた。
- ▲導入の仕方ーもうひと工夫あればよかった。
- ▲資料の読み取りを簡単にしてもよかった。
- ▲解答を渡すタイミングをもう少し工夫すればよかった。
- ▲良いか、悪いかの2択ではなく、一方では・・・でも他方では・・・といった考え方もあるのではないか。

☆指導・助言☆

### 尾道市教育委員会教育指導課:常光 涼介 指導主事より

- (○:成果, ▲:課題, ☆:今後に向けて)
- 興味深い単元であった→学び方を学ぶ
- 子どもたちを否定する言葉が少なかった→安心して学べる場
- お互いに学び合う姿勢があるクラス。



▲具体的に褒める→何が良かったのか。

▲「良い」「悪い」という言葉→今の何につながっているのか。

☆多面的・多角的な意見がでるよう、見る角度を変えることで考えを深められる。

☆主体的な学びのために、生徒自身に必然性のある課題をもたせる。

その際、信疑的欲求を満たす。

☆「何をどう問いたいのか」・・・どうして（理由）どうする（方法）どうなる（結果）

## 2学年 理科 授業者:小坂

今回の授業では、化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら「二酸化炭素の中で燃えるマグネシウムの秘密」に探究的に見いだしていく授業を展開しました。小学校での既習事項との「すれ」をもとに、生活体験と結びつけながら思考していくことをねらいとしました。



### 研究協議を実施して（○：成果，▲：課題）

○視聴覚教材が効果的に活用されていた。

○モデルを用いて思考する場面が設定されていた。

○役割分担が明確化されていた。

○学習の流れが提示されており見通しを持って学習に臨んでいた。

○課題設定が生徒の興味を惹くものであった。

▲安全面で不安が見られた→理科室での実験がよい

▲支援が必要な生徒への手立て→ヒントの出し方などの工夫

▲実験時に、密の状態になっていた。

▲モデルの数が、次に学習する化学反応式に対応する形の方がよかった。

☆指導・助言☆



### 尾道市教育委員会教育指導課：才谷 瑛一 指導主事より

（○：成果，▲：課題，☆：今後に向けて）

○ICTを活用して生徒の考えがいつでも共有できる環境にあった。

○生活体験をもとに、授業と関連付けることができていた

○「わかる」授業であった。

▲誰かに説明する場면을意図的に設定する。

▲似たような問題で、もう一度挑戦して「できた」を感じることができる場面づくりをする。

☆1人でできた！と感じさせることができるように仕組む。

☆授業があって1人でできるようになったと思える授業づくりをする。



## 授業研を終えて、今後に向けて学校全体で見直すポイント

その①逆向き設定の授業づくり(単元構想図をもとにした単元を見越した授業づくり)

その②主体的な学びを実現するための必然性のある「めあて」の設定(課題設定)

その③授業のプロセスの揭示

→1時間のストーリーがわかるよう学習の流れの見通しをもたせるユニバーサルデザインの授業

(めあて, 個人思考, 集団思考, まとめ, 振り返りなどを事前に貼って見通しをもたせる)

この3点を学校全体として組織的に取り組みましょう。よろしくお願いします。(裏面もあります)



# TT通信



～TEAM TAKANISHI 心一つに 未来をつくる～

第8号その②

令和2年7月6日

研究主任 小坂

## 杉田先生による講演

### 『今こそ求められる特活の教育力』

昨年度よりご指導いただいている國學院大学人間開発学部教授 杉田洋先生による講演が全体研修の最後に行われました。昨年度の1年間の取組の成果と課題、そして今年度の取組や参観していただいた授業についての指導・助言もしていただきました。そして、このコロナ禍の中で、どう学校教育を行っていくかということや、特別活動の必要性についてご講演していただきました。



### 杉田先生のご講演内容について以下抜粋です。

☆組織として揃える→同じ船に乗ってみんなで漕いでいかなければいけない。

校長先生のリーダーシップのもと、明確な方向性が示されおり、よいスタートを切った。やることはたくさんあるけど、その中でやることを揃えていくことが必要である。

☆授業のプロセスが明確に提示されていた。ただ、電子黒板では、継続して残らないので、黒板を意図的に活用していく。授業のプロセスについては、特別活動の話合いのプロセスと同様なものであり、見通しをもたせることが大切。ただ単に『考えよう』ではなく、『出し合って、比べる』中で考えていく。



☆子どもが中心にあるべき学校を→コロナ禍の中で、さまざまなことをやめてしまうのは簡単であるが、別のやり方でやっていく方向を模索する。今こそ特別活動の力が発揮される。

☆年間35時間の学活だけではなく、教科を通して横断的に取組む→教師の授業向上も必須である。

☆振り返りを行うことで、やってきたプロセスを自ら見返すことで、学びを能動的・自覚的にすることができる。そのことで、主体的な学びを実現していくことができるきっかけになる。

☆アウトプットすることで能は必要であると感じる。そのために自ら説明する場面を設定していく。

☆いろいろなものの見方・考え方ができるような子どもを育てる。答えがあるものではなく、自分たちで答えを探り、新しい答えを導きだしていく。そういった多様な考えができる子どもたちを育てていかななくてはならない。

杉田先生のご講演では、特別活動についてだけでなく、多岐にわたりお話をしていただきました。その中に、多くのヒントがあったように思います。これからの教育に求められること多くご指摘いただきました。これからの実践にいければと考えております。

杉田先生、ありがとうございました。

# 1人1研究授業の実践～『わかる授業』『できる授業』の創造に向けて～

## 【尾道版学びの改革推進事業より】

今年度の、1人1研究授業に実践にあたり、研究授業日程を下記のように設定させていただきました。それぞれの先生方の専門性を活かし、授業を通して学校教育目標達成に迫りましょう。尚、4月当初の希望アンケートを参考にしておりますが、コロナウイルス感染症に伴う臨時休業で予定を大幅に変更しました。ご理解ください。



日時	授業者（教科）	指導起案日×切 （2週間前）	指導案市教委提出日 （1週間前）
7/13（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤井先生（数学）</li> <li>・若宮先生（技術）</li> </ul>	7/2（水）	7/6（月）
9/8（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤先生（理科）</li> <li>・脇川先生（数学）</li> <li>・矢野先生（音楽）</li> </ul>	8/25（火）	9/1（火）
9/29（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能島先生（家庭）</li> <li>・中畑先生（保健体育）</li> <li>・桑木先生（保健体育）</li> <li>・豊田先生（英語）</li> </ul>	9/11（金）	9/18（金）
10/7（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保手濱先生（英語）</li> <li>・水永先生（国語）</li> <li>・内廣先生（社会）</li> </ul>	9/23（水）	9/30（水）
11/4（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉先生（美術）</li> <li>・重田先生（英語）</li> <li>・澤田先生（数学）</li> </ul>	10/21（水）	10/28（水）
12/2（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田中先生（社会）</li> <li>・吉田先生（国語）</li> </ul>	11/18（水）	11/25（水）

○指導案は、2週間前 校内起案締め切り、1週間前 市教委提出とします。

○指導案と単元構想図のデータは【教職員—研究推進—R2—指導案関係】にあります。

よろしくお祈いします！